

R5 国立市立国立第七小学校 授業改善プラン（算数）

学 年	・課題（児童の実態）	○具体的な改善プラン
1 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数を数える、数をまとめて見る経験が少ない児童がいる。</li> <li>・足し算や引き算の計算の習熟に時間がかかる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○数と計算分野の学習で具体物を数えたり、5や10のまとまりを作ったりする活動を入れる。</li> <li>○自分の考えをもった上で、ペアで話したり、学級全体で考えをつなげたりしながら検討する授業展開にする。</li> <li>○授業開始時に計算カードやフラッシュカードに取り組む。計算カードは並べる活動を行い、数を関連させてみる見方を育む。</li> </ul>
2 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・繰り下がりの計算が苦手な児童が多い。また、練習問題をたくさん解くことに抵抗がある。</li> <li>・差を求める問題や3つの数の計算の文章問題では、図で表したり、式で表したりすることが難しい児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○繰り下がりのイメージをしやすいようにブロックや位取り表など、図を活用する。練習問題は、児童の実態に応じて問題数を設定したり、タブレットを活用したりしながら個に合った学習課題に取り組みせ、習熟を図る。</li> <li>○文章題では、分かっているものと求めるものや演算決定となるキーワードに線を引かせたり、具体物や半具体物を操作させたりしながら、図に表す力や立式する力を育む。</li> </ul>
3 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・繰り上がりや繰り下がり、かけ算九九など、基本的な計算問題を苦手としている児童が多い。</li> <li>・自分の考えを表現することに自信をもてない児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○パワーアップタイムで既習事項の確認をし、基礎学力の定着を図る。特にじっくりコースやしっかりコースでは、ドリルパークやプリントをして苦手な問題に繰り返し挑戦できる時間を設けていく。</li> <li>○問題の解き方を考える活動で、友達と交流する機会を設け、自分の考えを相手に分かりやすく伝えられるように指導していく。</li> </ul>
4 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・わり算の筆算の計算手順や位を立てる位置がずれることがあり、定着に時間がかかる。未定着の児童も数人いる。</li> <li>・数の仕組みを理解することが難しい児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○パワーアップタイムで前年度の既習事項の確認をする。単元によっては、前時の確認を行う。繰り返しパワーアップタイムを活用して、基礎学力の定着を図っていく。</li> <li>○じっくりコースやしっかりコースでは、ドリルパークやプリントを利用して苦手な問題に繰り返し挑戦できる時間を設けていく。</li> </ul>
5 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習事項が積み重なっていないことにより、計算に対する苦手意識をもつ児童が多い。</li> <li>・問題に対して試行錯誤しながら粘り強く取り組むことが苦手な児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業の始めに、数の概念や数的感覚を高めるためのパワーアップタイムを設け、基礎的な技能を身に付けさせる。</li> <li>○題意を捉えるために具体的な場面を想起させたり、解決の手立てを提示したりして、児童が自力で解決する経験を積み重ねていけるように自力解決の時間を設定する。</li> </ul>
6 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「数と計算」では、計算の決まりを正確に理解していない。</li> <li>・「変化と関係」では、比例に対する理解度が低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○計算の順序や（ ）の意味理解を図り、正しく計算する力を身に付けさせる。また、授業の始め3分間でパワーアップ問題に取り組み、既習事項の定着を図る。また、パワーアップ問題に授業に関連した内容を取り入れることで、既習事項を想起し、見通しをもって本時の学習ができるようにする。</li> <li>○数と数の関係を表やグラフにまとめさせる指導を繰り返し、数の変化に着目して、比例の関係にあるかどうか確認するように指導する。</li> </ul>